

200歳 万歳!

200歳まで生きる会
H十八年十二月第七号

「無」の心境について

今年も残り少なくなった。

新しい年を迎えると、私は満八十二歳になる。過ぎ去った八十一年を静かに回顧していると、ふと浮かんできた言葉がある。それは「無」という一字である。

私の家には、健康長寿を全うした伯父が（書家・満九十四歳で死去）、私に贈ってくれた掛け軸があり、墨痕鮮やかに、「無」と書かれている。

伯父が私に示唆した「無」の真意が、この頃になってようやく分かってきた。

その「無」について、私の現在の心境を述べてみたい。

一つは、「無」は宇宙の大きな原理原則である、私は思っている。大自然の中のすべての生物は、無から生まれ、やがて無に帰っていく。このことは、宇宙始まって以来の一貫した大きな流れである。

実に「無」は、すべての生物を生み出し、また包み込む神秘的な力を持っているといえるよう。

二つは、人間もまた一つの生物として同じく無から生まれ、無に帰り、二つ世から消えていく。無から生まれ、無に帰る間が「人生」である。

このようなマクロ的な視点に立つて、「人生」を考えてみると、今までの考え方が一変してくる。

ある先哲は、人生についての幸せを次の五つとしている。

- (1) ある程度の蓄財すること
- (2) 誰にも拘束されない自由な時間を持つこと

- (3) 豊かな趣味を持つこと

- (4) 何でも話し合える友を持つこと

- (5) 心身が健康であること

しかし、所詮すべてが「無」になるという、大原則に立脚するならば、前述したように自ずから考えは変わってくるはずである。

一つの例をあげると、人生の「真の幸せ」は先哲の言った五つのことを越えて、世のため、人のために貢献すること（慈善・育英事業など）であることが自然に分かってくる。

ここまで考えを進めているうちに、「無」という一字の中に、私は一つの新しいことを掴

んだ気がした。

そして勇気が湧いてきた。

この心の変化を、これからの余生の中でいろいろなことに活かしていきたいと考えている。

長い人生の中で、一つとき過去を回顧することも、新たな飛躍につながるものと改めて思っている次第である。

以上は八十一歳の高齢者である私が、現在の心境を「無」という言葉を通して、ありのままに述べたものであり、若い会員の皆様が人生について思考する上で、何らかのお役に立てば、誠に幸甚に存じます。



長岡 喜法（ながおか よしのり）

1925年、山梨県に生まれる。
現在、賃貸マンションチェーン
（株）ロングヒルジャパン 会長、
財団法人 長岡育英会 理事長、
NPO法人 地球こどもクラブ 副会長、
山梨県人会連合会 副会長。

特集記事

年長者の脳機能についての見方が変わった

これまで人間の脳は再生成されることはなく、加齢に伴って減じていくばかりだと思われてきました。ところが最近では、これは全くの間違いで、いくつになっても脳は刺激によって、新たな細胞が生成されるという考え方が主流になってきています。

脳の多くの部分に原始細胞というのがあり、ある特定の状況で、それが完全に機能する神経細胞や、グリア細胞と呼ばれる脳細胞へと生長していくと見られるようになったのです。

この発見はパーキンソン症やアルツハイマー症など、加齢に伴う病気の治療にとっても、自分の知力を向上させたいと願う成人すべてにとっても、とても深い意味を持つものです。これはつまり人間はいつでも自分の脳を生成発達させることができるということの意味するのですから。

この見方が広がってきたおかげで、年長者の脳機能についての見方が、今では一変してしまいました。ベルリンのフンボルト大学のゲルド・ケンパーマン教授は同大学の実験神経学部で研究を行い、「神経生成により年長者の脳は次々に新しい作業に順応できる」と発表しました。

成人の脳はたとえ損傷を受けていても、それを治療して回復させるための能力があると思われるに至ったのです。

最近では年長者の脳に関する研究が非常に進んで

きました。研究者達はPETスキャンやMRI（磁気共鳴装置）を使って研究を進めているうちに、年長者の脳に予期しなかったことを発見しました。

若い人が記憶の中からある言葉を引き出すとき、多くの場合左脳を使うのに、年長者はしばしば多くの場所を同時に使うことを発見したのです。

デューク大学の認知神経学センターのロベルト・カビーザ教授はこの現象を「年長者における両脳の軸対称の現象」と呼んでいます。

彼は脳の機能低下が見られる年長者は、成人若年者と同じく、右脳の前頭前野を使っているが、機能低下の見られない年長者では、脳の多くの場所を使っていることを発見したのです。つまり機能低下の見られない年長者は神経ネットワークを再構築することで、加齢に伴う神経機能の低下に歯止めをかけていると、科学的に突き止めたのです。

人間はいくら年をとっても、脳を鍛えることができ老化していくものではないということがはっきりしたのです。

若年者の脳と年長者の脳の使い方の違いで、さらに分かったことがあります。若年者グループでは過去の出来事を思い出すのに、主に左脳の海馬を働かせているのに対し、年長者のグループは左脳と右脳の両方の海馬を働かせていたのです。高齢者ほど両脳をよく発達させているのです。

脳は使うほど健康になります。私たちの脳は想像以上に弾力に富み、適応力に富んでいます。脳は次の5つの分野の活動を、定期的に行なうことで、知力がより高まり、明晰になり、敏感になる

ことが研究により明らかになりました。

1. メンタルの面の訓練をする
 2. 肉体的な面でも運動すると脳の能力向上に繋がる。（カナダの研究者によると肉体的な活動の活発な人は、アルツハイマー病などにかかるリスクが低い）
 3. やりがいのある余暇活動を行なう
 4. 一芸に秀でる
 5. 強力な社会的つながりをつくる
- 人間の脳はまだまだ深い潜在能力を秘めています。年をとってきたからもうだめと思い込まないようすることが大切です。

出典 いくつになっても脳は若返る ジーン・D・コーエン ダイヤモンド社

超人ノエル・ジョンソンの話

ノエル・ジョンソンは70歳のとき、神経痛、通風、心臓病にかかっており、ブヨブヨで、ガタガタの体でした。

そこから心機一転、超人になろうと決意しました。

彼は三年間図書館通いと、運動に励み、心身を鍛え、三年後にはシニアボクシングで、元ヘビー級プロボクサーのルー・ノーバンを破りチャンピオンの座につきました。

それから挑戦者を次々に倒し、シティマラソンにも参加して、世界最長老の金メダル獲得者になりました。

八十三歳のときにレーガン大統領から大統領栄

誉賞をおくられました。

彼の内臓は四十代前半そのもので、私はこんな人間を見たことがない、とコロンビア大学のグーチン医学博士を驚嘆させました。

彼の若返りの秘訣は大いに私たちの参考になります。

ジョンソンはその秘訣を四つのポイントで語っています。

①病を治すのも、若返るのもマインドパワーにかかっている。健康で若さに溢れた自分の肉体をしつかり脳裏に描くこと

②活性食（生きた食べ物）を摂ること。死んだ食べ物（砂糖・肉類・添加物入りのパンなど）は摂らないこと。果物や植物の種子・葉・ナッツ類・ポウリン（花粉）・はちみつ・野草類を摂ること。

③細胞の働きを高め全身の筋肉をバランスよく鍛えること。なるべく立っていること。これは背骨の強化と、筋肉の訓練になる。

④保息（息を止めること）

呼吸をする時に、吐く・吸う・止める（保息）のうち、息を止める時間を長くする。この休止は最初は4秒くらいから始めて、10秒・20秒・30秒と伸ばしていくと良い。

実は保息（息を止めること）には大変な秘密があるのです。

『アインシュタイン・ファクター』という本を書いたアメリカの脳研究学者ウイン・ウェンガーは学生の頃、成績を上げるためにサマースクールに通いました。

午前中授業を受けて、午後は何時間もプールで

泳いで過ごしました。潜水が好きで、水中に潜り

息を止めるということをよくしていました。ついには4分半ほど潜っていられるようになりました。

すると不思議なことが起きました。これまでばつとしなかった成績が急に良くなり、試験を受ければすべて満点。その夏の終わりににはクラスのビリからトップに躍り出ました。

実は息を止めることに脳の秘密が隠されていたのです。潜水で息を止めると、脳は酸素が減少していると錯覚し、頸動脈が大きく開いて、多くの血液を脳に運ぶのです。それによって酸素を含んだ血液が通常以上に脳に行き渡るのです。

息を止めることで、血液中の二酸化炭素が増加すると、脳はそれを酸素の在庫が減ってきていると解釈するのです。そこで血管が広がり、濃密な血管網になり、頭に酸素が行き渡りやすくなるのです。

中松義郎博士は世界一すばらしい発明家です。博士は三千二百件以上の発明特許を取り、フロップ・ディスクやシネマスコープ・カラオケ・ファクシミリ・デジタル表示機・人工心臓などの発明品を世の中に送り出しています。

博士の思考方法はユニークです。プールに飛び込みできるだけ長く水中に潜って、もう限界というところまでくると、水面から顔を出すのです。

博士はこのやり方を「死の寸前まで潜る法」と呼びこれによって最高のアイディアを得てきたと言います。

この方法はちゃんと脳の生理学に基づいていたのです。

長生き物語

「長生きの村 ヴィルカバンバ」

南米ペルーに隣接したエクアドルという国があります。エクアドルのアンデス山脈の中に、極めて行き来が難しいヴィルカバンバという小さな村があります。ここは、健康な長寿者が多いことでよく知られた村です。世界には3大長寿地帯というのがあって、その一つは「200歳万歳」第5号で紹介したロシアン南部のカフカス（コーカサス）、それにヴィルカバンバとパキスタンのフンザの3つの地帯です。フンザについては、次回に書くことにして、今回はヴィルカバンバについて書くことにしましょう。

ヴィルカバンバというのは、インカの言葉で「聖なる谷」という意味です。ここは、その名の通り、魔法が秘められた場所といわれ、ここに天候はこれ以上ないほど温和で、季節の変化がほとんどなく、1年を通して平均気温は20度ぐらい。海拔1300m、草の生い茂る牧歌的な土地で、穀物、果物、野菜が簡単に栽培され、野生の食べ物が多く手に入る場所です。

1981年、内科医モートン・ウォーカーは、ここを訪れ住民の健康調査を実施して、発見したことを詳細にレポートしました。「西半球に住民がほとんど病気にからない場所がある。心疾患、ガン、糖尿病、肝硬変、動脈硬化、老衰などもない、血流に支障を生じさせる病気もない。住民は変性疾患で死なないので、人類として生きられる最高の長寿100歳まで楽に生きている。ここは地球上の真の楽

園である」

これより先、ハーバード大学の医学部の教授でマサチューセッツ総合病院の院長で、長寿についての研究者アレクサンダー・リーフは、1970年の初めにここを訪れ、「ナショナル・ジオグラフィック」誌にそのレポートを書いていきます。その中で、この高齢者たちは、実に活発で、103歳の女性がメガネなしで縫い糸を針に通し、95歳の女性が楽しそうにパン屋で働いているのを報告しています。

1956年アメリカの新聞各社は、ここに住む107歳になるといわれるハビエル・ペレイラという長寿者を「信じるか、信じないか」という特集を組んで紹介したことがあります。そのことがきっかけで、医師団が大掛かりな調査を行い、338人の住民に病気がほとんどないことが発見され、以来、広く世に知られるようになりました。

ヴィルカバンバの住民たちは、加工食品を食べたことがありません。人工防腐剤、化学添加物といった化学物質が一切に入っていないのです。彼らは完全な菜食主義で、穀物、野菜、果物、種、豆類、木の実が主食です。牛乳、羊の乳、鶏卵は食べることもあるけれどもそれは極めて珍しいことです。肉はほとんど食べません。一日に摂る食事のカロリーは少なく、肥満体はおらず痩身です。

たんぱく質は全粒穀物、各種の豆類、野菜から得ています。炭水化物はとうもろこし、大麦、小麦などの精製されていない穀物、ジャガイモ、さつまいもなどから、脂肪分はアボカド、種、木の实から摂っています。彼らの食事はアプハズの住民の食事とよく似ています。砂糖は一切摂らず、甘いものはいちじく、パイナップル、オレンジ、スイカ、バナナ、パイイヤ、マンゴーを食べます。健康で満ち足りた食

事というのは、彼らの食事のことだといわれます。

食べ物が高寿に大きく関わっているのです。もう一つ水があります。アプハズの水もヴィルカバンバの水も、実は重水素減少水であることが分かったのです。長寿の源は、重水素の少ない水であるとして、注目を浴びるようになりました。

現在世界でもっとも長寿国として、医学者や科学者から研究の対象となつていて、パキスタンのフンザ、ロシアのカフカス（コーカサス）、南米アンデスのヴィルカバンバでは、彼らの飲む水が重水素の濃度が133~138ppmと少ない水であることが判明したのです。重水素減少水については、この会報の創刊号に書いてあるので再読してください。人間が生命を維持していく上でもっとも大切なのが水ですが、地球上の普通の水は、どの水も重水素の濃度が150ppm以上あり、DNAに損傷を与え、ガンを引き起こしたり、老化の原因になるといわれるのです。

ところが、長寿者の住む地帯の水には、重水素の含まれる濃度が低く、その水を飲んでみると、ガン細胞など増殖できないといわれます。長寿村の原因にひとつそのような秘密があったというわけです。

ヴィルカバンバ



健康情報

いっしょの話

ごしんじょう療法というものがありません。二本の金の棒で体をこすり、体に蓄積された悪い電磁波を除き、それと一緒に色々な症状を消していきます。末期癌や難病の助けになる不思議とも言える療法です。電磁波から体を守る世界で唯一の療法とも言われています。

人々はまだ色々な電気器具から出る電磁波の恐ろしさに気づいていないように見えます。電磁波はテレビ、電子レンジ、蛍光灯、電気毛布などあらゆる電気製品から発しています。テレビのなかった昭和30年以前と比べると、現在は部屋の中におよそ2億倍の電磁波が室内に飛び交っているといわれています。

これらの電磁波は、有害な電氣的なエネルギーとして人体に吸収され、過剰エネルギーとなって人体に悪影響をおよぼします。特に電気毛布や電気カーペットを使っていると、体全身に電磁波を受けることになり、その影響はこわいものがあります。人間の脳波はデリケートな電気の波です。人間の体の中で、発電と送電が行われているのです。

この体の中の電気が過剰になると、脳や人体、

臓器や細胞の働きに変化が起きます。過剰エネルギーが人間を苦しめることになるのです。

この過剰エネルギーを抜くのに、ごしんじょうほど驚異的な効果のあるものを他に知りません。子どもたちの不登校の一つがこの過剰エネルギーにあると知ったら、驚かれるでしょうか。

小学校六年生のA子ちゃんは、昨年の十月から学校に行けなくなりました。電気毛布にくるまってテレビを見ているだけです。お医者様の診断では、どこも悪くないという事でした。でも、子どもらしい表情はすっかり失い、うつろな表情をしていました。

ごしんじょう療法をすると大変痛がりました。けれども、これによって過剰なエネルギーがどんどん取り去られるので、痛みが消えていくのです。やっていくうちに、皮膚に赤みがさしてきました。気の流れがうつ滞して邪気になれば、痛みが生じ、その邪気を取り去り正しい気の流れにすると、痛みは消え、正常な細胞や神経の働きが戻るのです。生気のなかったA子ちゃんの顔に表情が出てきて、笑いながら「気持ちが悪くなった」と言います。お母さんはびっくりです。不登校以来、A子ちゃんは笑ったことがないのですから。数日すると、A子ちゃんは、学校に行けそうだと言うようになりました。

歩くことが難しくなり、病院に七年も通って薬、注射、電気治療あらゆる治療を試みた人がこのごしんじょう療法で、過剰なエネルギーを抜くと、

この日から歩けるようになりました。電気治療で治しているはずなのに、逆にこの治療のために電気エネルギーを過剰にもらって、歩けなくなっていたのです。電気毛布にくるまって生活していたので、どんどん過剰エネルギーを取り込んでいたのです。

このエネルギーを日本のごしんじょうで消していくという実にシンプルな行為で、難病が消えていくのです。

ごしんじょうはこのように驚異的な効果を見せます。ごしんじょうで体をこすると、こすられた人は、ビリビリと電気のようなものが手から、足から、指先に向かって流れていくと表現します。過剰の電気エネルギーが、手足から出て行くのです。

こうして邪気（過剰エネルギー）を取り去ると、免疫の働きが高まり、自然治癒力を高めます。アトピー性皮膚炎の赤くただれた皮膚が半日、一日で驚くほど好転します。アトピー性皮膚炎は気の異常から生じていたのです。

ごしんじょうによる病氣治しは大変シンプルです。病とは気が病んでいるということです。この病んだ状態を治す、最も効果的な療法がごしんじょう療法と言うわけです。

ごしんじょう療法でよくなったいくつかの症例をご紹介します。

末期がん73才男性

三年前に胃がんの手術を受けて、そのときに肺がんと診断される。今年になり、咳、血痰、栄養不良で入院するが、六ヶ月経過しても少しもよくならず、「家で死にたい」と強い希望で退院して、医院にかかりながら家庭療養していたが、だんだん苦痛がとれない、昼夜を問わず病と闘う毎日だった。

三回の施術で、少し活気が出て顔色が良くなった。七回の施術で自力でトイレに行くことができ、久しぶりにシャワー浴ができた。現在、食事がとても美味しく、時には庭いじりをしたり、電動椅子に乗って買い物に出かけている。

膠原病（リウマチ） 57歳男性

長年の膠原病で、膝の激痛のため一人で階段を上ることができず、肘の痛みのためネクタイを結ぶこともできない状態でしたが、施術後痛みが大幅に軽減し、階段の上り下りが出来、ネクタイを結ぶこともできました。その後妻がごしんじょう療法を習得し、私に施術をしてくれますので、大変良好な状態です。

癌による激痛 53歳女性

乳がんの手術後、五年間抗がん剤を服用。三カ月前より背中と腰の激痛のため、非モルヒネ系の強い鎮痛薬を服用していましたが、痛みのため数分も横になることができず、ソファにもたれて

睡眠をとっていました。

最初の施術後に三十分ほど横になって眠ることができました。三回の施術で朝まで横になって眠ることができ、本当にうれしく感謝しました。予定されていた入院しての化学療法を中止し、鎮痛剤も止めました。その後、海外旅行を一人で行うほどに回復しました。

三十年来の激しい頭痛と冷え性 50歳女性

私は三十年前より、ほとんど毎日頭痛薬を服用しておりました。最初のうちは軽量できいていましたが、徐々に飲む量が増え、一度に一箱十四錠を飲むようになりました。それでも痛みがとれなくなっていました。が、ごしんじょうを受けて以来、薬と縁が切れ、頭痛もなくなり本当に楽になりました。

今では自分自身でごしんじょうの治療をしています。夏でも靴下を履いていたほどの冷え性が、冬でも裸足で平気になりました。

ごしんじょうは今、抗がん剤などの治療に併用して、がん治療に非常に効果的と、医師の間でも大変評判になっているそうです。

ごしんじょう療法の問い合わせ先

03(3460)0901

右脳の話

頭の中に二つの作業回路がある

この世は見える世界と見えない世界から成り立っています。ロンドン大学の理論物理学教授デヴィッド・ボーム博士は目に見える現実の世界を明在系、目に見えない波動の世界を暗在系と呼んでいます。

人間は本来この二つの世界を認知する能力を自然に与えられているのですが、それを十分使いこなしていないのです。

人間には左脳と右脳があり、それぞれが別の情報系を持っています。左脳は明在系の現実に対応する作業回路があり、右脳には波動系の暗在系に対応する作業回路があるのです。人間はもともとこの暗在系の作業回路を自由に使う能力を持っていたと考えられます。

例えば仙道というものがありません。仙道では様々な仙術、養生法、健康法が修行する方法としてありますが、これは波動で情報を得て認知する方法を身につけるものです。

仙道は二〇〇〇年も三〇〇〇年も前に発達したもので、その目指すところは、人間が肉体的にも精神的にも自在に自分をコントロール

ルできるようにすることにあります。

仙道では、生活の中で自分の精神と宇宙を一つに融合することを目標とし、これを「天人合一」と言っています。その境地に入ると、不思議な能力を自由に発揮できるようになります。古代に仙道と漢方に通じた神農という仙人がいました。薬草を初めて世に広めた人だと言われます。

神農はいろいろなものが透視でき、自分の体の中までよく見えました。

山で草を取り、味を見ます。同時に自分の体の中でその薬草がどう動いているのかを見るのです。その変化をよく記録して世に伝え、それが漢方薬の始まりとされています。

神農は暗在化の右脳のイメージ力が自由に発揮できたのでしょう。

これと同じことを七田教室の子どもたちがやります。

例えば次のあるお母さんからのレポート。

「我が子が最近イメージで私の体の痛みを和らげてくれるようになりました。私は元来胆のうが弱く、痛むときがあったのですが、ためしに、「Aちゃん、ママの体のここが痛いので、入って見て来て」と言ったら、「うん。わかった。行ってくる」と言って、「はい、治したよ。少しはれていたの、白い柔らかい布

良書推薦コーナー

「50歳から始まる人生 50歳で終わる人生」

玉村静一郎／現代書林

で押さえてきたよ」とか、「ママは頭が痛い」と言うとか、また入ってくれ、「ママの脳の中は切れそうところがあつたので、つないできたよ」とか、先日「お腹が痛い」と言いましたら、「3つもバイキンがあつてね、1つは缶みtainな形でできていて、2つ目は透き通ったガラスみたいで、3つ目はすごく暗い色で、お鍋のような怪物があらはれていたの、星のつえでやつつけたよ」等々。

そうしますと本当に痛みがすつと消えるのです。本当に不思議です。

教室で子どもの右脳を高めてくださつたおかげと感謝しています。

私の4歳の息子は、イメージで川崎病を治してしまいました。

七田先生の著書や、先生の子育ての会の会報「夢そだて」でよくイメージで病気を治したという実例が載っています。

まさか自分の子にそれが起こるとは予想もしなかつたのですが、あまりにもすごいパワーだったので、ぜひご報告しなくてはと思いました。

七田教室の子どもたちでは、このような例は珍しくありません。子どもたちは右脳の作業回路を開いて自由に使っているのです。

著者の玉村静一郎さんは現在72歳です。これまで波乱万丈の人生を送ってきました。

50歳で会社倒産。60歳で大恋愛。そして結婚。愛娘が誕生します。70歳で歌手としてデビューし、そしてオリコン演歌チャートで5位にランクインします。

70歳で新人歌手なんてすごいですね。どうしてそんな歳になって歌手デビューしたのかと聞かれて同世代、あるいはもつと上の世代の方々を元氣付けようと思つたからというのですから、嬉しいですね。

玉村さんは、これからの日本は嫌でも高齢化社会に突入します。だったら高齢者が真剣に生き方を考えなくてはと考えて、なんと青春大学を創り、その学長でもあるのです。

玉村さんはかつては家電販売店の経営者でした。そして13年間日本一の売上げを誇り、48の子会社を持っていたというほどのやり手でした。ところが不幸にも大腸がんに侵され

闘病のうちに倒産。10年以上も苦境の中で生活します。その中で健康もすっかり取り戻し、病氣は自分で治す時代だ。ガンなんて怖くないと、年をとつても健康に過ごす青春大学を設立されたというのですから、ユニークもユニーク。63歳でパパになったり、ラジオで「いきいき青春大学」という番組に出て、人生相談を行なっているなど、年をとつても大活躍の人生を送っておられます。

この本は年長者が読んでとても元氣付けられる本です。



「50歳から始まる人生 50歳で終わる人生」

玉村静一郎著／現代書林

会員様からのお言葉

先日「ほろ酔いパーティ」では、七田先生とお話できてとてもうれしく感じました。200歳まで生きることができるというお話を聞いてとても希望が湧いてきました。自分もこれからは食事と運動には気をつけたいと思います。右脳の開発も実験し続けたいと思います。

T・K 富山市

小生こと10月初旬に入会しましたが、第六号を本日拝受。家族一同で熟読しております。①インフルエンザの撃退法②呼吸法③ヒマラヤの若さを保つ方法等々感謝しております。次回第七号をお待ちしております。

K・M 三次市

第六号を拝受しました。大切に活用させていただきます。大切な人生を有意義に生きたいと存じます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

M・F 姫路市

第六号に掲載されていた白湯を大量に飲む健康法を実践して、その効果に驚きました。

先日喉が痛く、ぞくぞくする寒気があり「風邪かな?」と思ったとき、この健康法を試みしました。ポットに白湯を用意して傍らに置き、ちよこちよこと半日かけて飲みました。するとポットのお湯がなくなるころには、喉の痛みも、ぞくぞくした寒気もなくなっていたのです。喉も潤い、白湯なので体を冷やすことなく、逆にポカポカしてきたのです。薬や医者さんに頼ることなく、ただの白湯で治るなんて驚きでした。

途中入会したので、創刊号、先日届いた第六号以外のバックナンバーを購入したのでよろしく願います。とても良い、参考になる内容なのでぜひ読みたいのです。

200歳の会万歳の会報を読ませて頂きました。なんて面白くユニークで前向きな会なんだろう。さすがは七田先生の編集と感激し、早速入会させて頂きました。今後の会報を楽しみにしています。

投稿者大募集!

「200歳 万歳!」は、一方的に情報を伝えるのではなく、会員の皆様からの情報や意見を取り入れた双方向性のものでありたいと思っています。投稿をお待ちしています。投稿先は事務局まで。お手紙またはFAXで投稿ください。

編集後記

第7号をお届けします。大変嬉しいことに、会員数が150名をすでに越えました。次々とご入会いただきありがとうございます。お届けした情報について、早速実践してくださり、その結果をお知らせいただけることは、この上ない喜びです。少しでも200歳万歳の情報が、会員の皆様にお役に立てますことを心から願っています。

【発行人】

七田 眞

【発行所】

「200歳まで生きる会」

〒695-0011 島根県江津市江津町527-5
☎0855-52-5301
FAX 0855-52-5797